

2003.09.16：市民教育委員会

消防局長

それでは、消防局から1点御報告を申し上げます。

資料3の第32回全国消防救助技術大会結果についてでございます。

去る8月28日午前9時から、泉総合運動場におきまして第32回全国消防救助技術大会が開催されました。

当日は、全国各地からよりすぐりの救助隊員約950名が一堂に会し、日ごろの訓練の成果を遺憾なく発揮され、本市消防局につきましては、陸上の部で4種目の競技において、いずれもトップタイム、最優秀の成績をおさめることができ、大変誇りに感じているところでございます。

また、本大会はプランニングの段階から学生ボランティアの協力を得るなど、随所に市民協働を取り入れ、参加者の記憶に残る、そして、今後の大会運営の方向性を示す大会になったものと思っております。

終わりになりますが、小雨の降りしきる中、御来場いただき、温かく、大変心強い御声援をいただきましたことに、心より御礼を申し上げ、報告を終わりたいと存じます。

委員長

ただいまの報告に対し、何か質問等はありませんか。

池田友信委員

やらないと思ったんですけれども、この機会でないといけないので、ちょっと済みません。

この全国大会を開催をした消防の役割というのは非常に大きいと思っておりますので、したがって、開催地としての考え方とか、いろいろ聞きたいと思っておりますけれども、一つは、運営全体のことは、今、局長が言われたように、仙台方式ということで運営を市民と一緒にやっていくという新しいことを企画されてやったということは非常に素晴らしいと思っております。やはり、この消防関係は市民の参加ということが非常に重要ですから、そういう中での参加、地域の自治防災の意識の高揚ということは、そういう意味では非常に素晴らしい企画だったなと思っております。

もう一つ、ちょっと気になることは、競技大会の種目の件でちょっとお伺いしたいんですけれども、全国大会の競技種目は、現在の種目というのはいつごろからやられていて、新しい種目というのは、その都度、その都度入っているのか、それとも伝統的な形ですとやられておられるのか、その辺をちょっと

お伺いいたします。

#### 消防局長

まず、開催に至った役割といたしますか、今回受け取った経緯ですけれども、今回32回で、過去に31回あったわけですが、政令市はすべて既にやっております。政令市で残っているのは仙台だけと。そのネックになっておりますのは、水上の部の競技がありまして、それをできるプールというのが仙台に一長期間、約1カ月ぐらい借り切った状態でやるわけですから、それがなかったということが一つのネックでございましたけれども、今回、泉運動場の多大な協力をいただきまして確保することができたと、そういうことで、やっと32回目で仙台市でも引き受けることができたということがございます。

それから、訓練の種目についてですけれども、警防部長から御答弁申し上げます。

#### 警防部長

訓練の種目につきまして申し上げます。

ことしで第32回目ですから、32年前から始まっておるわけですが、これまでに、陸上の部、現在9種目ありますけれども、途中、2種目ほど修正を加えて、あるいは内容を大きく変更してやっております。それから、水上の部につきましては、大体同じような形でこれまでやってきております。

それから、先ほどありました仙台市の役割ということでございますけれども、やはり、この全国救助技術大会でございますので、何としまして、地域住民を初めとする多くの国民が見に来てくれるということでございますので、そのときに、特に開催地の力が劣っておって、非常にそれに対する期待が損なわれる、あるいは隊員も自信をなくすとすれば大きな損失になると。これは、開催地だけではなくて、全国民に対しても大きなマイナスになると、こういうことで、ただいま局長も申しましたように、この何年間かそれに専念して努力したところでございます。

以上でございます。

#### 池田友信委員

全国大会の開催地として、いずれ総括をして、全国消防会議の中で今回の全国大会の成果、問題、課題、そんなことを報告する機会があると思うんですが、その中でよかった点という部分では、そういった地域参加のことをですね、ぜひこれから広めていくためにも、そういう成果として報告していただきたいと思うんですが、問題は、その種目の問題で、ちょっと私も感じているんですが、

阪神大震災以降、それに宮城県沖地震のこと、そういうことを考えていくと、これから実践にもっと過酷な状況に対する訓練のやり方ということも一先ほど、女性は云々ということがありましたが、女性も含めてですね、やらなきゃいけない状況にあるのではないのかなというのを私は感じているんですね。実は、アメリカの消防訓練の状況を見てですね、すごいなど、私も非常に驚いたんですが、ビルそのものを全部バーナーで熱ましてね、耐熱服を着て、そして迷路をつくって、そしてそこから救助すると。途中でドクターが待機しながら、そういう競技をやっているんですね。それから、人をビルから下げてくるという、非常に力がある仕事なんですけれども、そういうのも男性と女性がチームを組んでやっているとかね。考えてみますと、訓練のいろんな状況の中で、その災害の状況に即対応できるような訓練をいろいろ工夫していくということもしていかないといけないのではないのかなと。したがって、今回は伝統的な形で32回目をやっておると思うんですが、ぜひ開催地として、新しい災害に対応する競技、あるいは訓練の仕方、この辺の問題提起もしながら、これからつけ加えていくというものがあれば、ぜひ開催地として報告の中に織り込んで、それはどんな競技がいいのか、開催地として言えることでありましょから、検討されまして、特に海外の訓練の状況なども参考にすることも必要じゃないかなと。私はアメリカの訓練を見ましてですね、日本の訓練と大分違うなということと、あわせてビル化してきている都市災害の中では、そういうことも考えていかなくちゃいけないんじゃないのかなということもつくづく感じさせられましたが、現在の訓練でこれから予想される地震を含めた、そういったものに対応する十分な訓練で網羅されているのかも含めてですね、ぜひ御検討をいただくようにして、今回の報告の中にいろんなことで発信したと、いろんな訓練のやり方も含めてですね、そんなこともぜひ御検討すべきではないかなというふうに思っておるんですが、局長のお考え等ありましたらお願いいたします。

#### 消防局長

訓練の種目をもう少し検討する必要があるんじゃないかという御質問、御提言でございますけれども、現在の競技大会は、あくまで基本技術をベースにして、それを競技することによって全体のレベルを高めていくという、そういう趣旨の種目になっております。ただ、最近、その種目の見直しということも、全国レベルで大分話題に出てきておりますので、来年度は神戸で開催することになっておりますけれども、それに向けての会議があれば、その辺のところも私の方から発言をさせていただきたいと思っております。

なお、米国の訓練の話が出ましたけれども、日本の消防、決して米国より劣っているわけではございませんで、全体のレベルから見れば、かなり日本のレ

ベルというのは高いわけで、ただ、海外のそういう事例も参考にしながら、いろいろ勉強をさせていただきたいと思います。

以上でございます。